令和２年度　「医学セミナー（医師の学校訪問）」

【日時】１２月　５日（土）　14:00～15:30
【場所】下妻第一高等学校　　２年４組教室（本館３階）　※ オンラインLiveでの実施
【参加者】本校生１９名（１年生１１名　２年生８名）

【講師】 鈴木　將玄（すずき　まさつね） 先生（筑波大学附属病院　総合診療科）

＜筑波大学医学群医学類の医学生＞
柴崎 史行 さん（５年次　本校卒業生）
福元 崇人 さん （４年次　本校卒業生）
穂戸田 勇一 さん（２年次）

今年度も「高校生のための医学セミナー(医師の学校訪問)」が実施されました。この事業は，茨城県教育委員会と筑波大学との連携により，医学を志す高校生を支援しようとの目的で実施されており，本校からは１９名の生徒が参加しました。
当初は１０月上旬に行われるはずでしたが，新型コロナウィルスの感染拡大により，時期を移し，オンラインで筑波大学附属病院と本校を結んでの実施となりました。

講師は鈴木 將玄 先生（筑波大学附属病院 総合診療科)。そしてサポートとして筑波大学医学群医学類所属の大学生３名（医学５年 柴崎 史行さん，医学４年 福元 崇人 さん，医学２年 穂戸田 勇一 さん）にも参加していただきました。柴崎さんと福元さんは本校ＯＢであり，穂戸田さんも地元出身で，常総市役所での勤務を経て改めて医学の道を志しておられる凄い方です（センター試験の前日にもお仕事でゆるキャラの着ぐるみを着ていらしたとのことです！)。

まずは鈴木先生からパワーポイントを用いてチーム医療の実際に関するレクチャーがありました。先生は実際に医療現場で起こるであろう事例に即して話を展開してくださり，また要所要所にグループでの話し合いのテーマを投げかけてくださいました。一見「よいお医者さん」に見える対応が，実は多くの問題と落とし穴を含んでいる…そこに気づけるかどうか…？　そんな日頃なかなか意識できない問題について，生徒は話し合いを通じて考え，自らの問題として捉えることができたようです。数多くの新鮮な学びがありました。

また，３名の学生さんは自らの体験をもとに，高校生へのメッセージを語ってくださいました。柴崎さんと福元さんは例年参加してくださっていますが，変わらぬ母校愛と後輩に対する思いに胸を打たれました。そして穂戸田さんの経験談は，たとえ回り道をしてでも自らの志を追い求めることの素晴らしさを教えてくださいました。生徒たちも大いに勇気づけられたはずです。

そしてセミナー終了後，当方がメールで送付させていただいた生徒たちの質問に対し，鈴木先生と柴崎さんが心のこもった返答をくださったことも望外の喜びでした（参加生徒には冬休み明けにお渡しします)。コロナ禍で医療体制の逼迫が叫ばれるなか，こうして貴重な機会をいただいたことに対し，心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

☞ 生徒のアンケートより

設問１ あなたがこの事業に参加した目的は何ですか。

- 医療に興味があり、良い機会だと思ったから。
- 医療に関してネットでも分からないものがわかると思ったから。
- 理学療法士になりたいと考えていて、医療のことをもっと詳しく知りたいと思ったので参加しました。
- 医療関係の職業について興味があり、具体的にどのような事を行なっているのかを知るため。
- 将来医療関係の職業につきたいと思っていて、今回の経験が何か将来に繋がればと思い参加しました。
- 医学とはどんなことを考える学問なのか、その他の職とどのような関わりがあるのか、大学でどんな経験ができるのか知ること。

設問２ 実際に参加してみて， 特に印象に残ったことは何でしたか。

- 医療はチーム医療と言われるくらいたくさんの人々が関わらないと成り立たないことが改めて分かった。 また、病気の人自身だけでなく、身の回りの人の生活環境や退院後の準備を考えるのが大切で、とても大変なことだとわかった。
- 脳梗塞を起こした患者についての事例で一見いい医師に見えたけれど、その後けいれんや肺炎が起きたときの対処法や、車椅子や手すり、ベッドなど必要なものが沢山あることを説明していなくて、退院するまでが医療の仕事ではないことが分かりました。
- 鈴木先生のディスカッションで想像しながら話を聞くことができたため、視野が広がりました。学生さん方の高校生時代の経験は大いに参考にしたいです。
- グループになり、実際の医療現場をリアルに考えたことが印象強く残りました。
- 医師と聞くと、患者の病気を治す、という印象が強かったが、このセミナーを通して、患者を生活の面からも支えることも病気を治すことと同じくらい重要なんだと思った。
- 一見正しい医療だと思ってもしっかり考えると必要な情報がかけていたり、医師からの説明が足りていなかったり、私たちは意外と医療について深く考える機会が少ないと感じたことです。
- グループごとの発表で各グループに自分の思いつかなかった意見が沢山あったことです。
- 実際にありうるようなシュチュエーションを用いて、グループで話し合うことを通して色々な事を考えた事です。チーム医療についてよく知ることが出来ました。
- 総合診療とは何か 退院後の支援の重要性。

設問３ この事業に参加するまで知らなかったこと，初めて知ったことは何でしたか。

- いろいろな職業の立場に立たないと、必要とされていることがわからないこと。
- 病気にはなってしまった後に、それによって生活が困難になってしまわないための保険があること。
- 少子高齢化にあたる医療の移り変わり。
- 医療系には自分が思っていた以上の数の資格があったこと。
- 1 人の患者さんが退院するまでには救命士や療法士、栄養士など本当に多くの方が関わっていて医療は医療でも職種がたくさんあるということです。
- 一人の患者に対して想像以上にたくさんの職種の人が関係していたこと。
- 患者が病気で倒れてから、救急車で運ばれて入院するまでに 20 個もの職業が関わっていると知り、一口に医療関係の仕事と言ってもたくさんあるんだなと思った。また、医療には、医学に関わる理系の力と、患者の生活に寄り添う文系の力の両方が必要だということを知った。

- 介護の保険制度や、患者が退院した後の支援の仕方について知ることが出来た。また、勉強への取り組み方や、大学生活で苦労したことも学ぶことが出来た。
- 筑波大の医学部は、実際のご遺体を解剖する。病院で治療するだけが医療ではない。
- 病と疾病の違い 内科と総合診療科についてなど。
- 退院をする時にどのような準備をしているのか。退院後どんな支援が受けられるのか。そのために必要な連携。

設問 4 この事業への参加を通して，今後あなたが実践してみたいと思うことは何ですか。

- 常に何が求められているのか、またどうすればもっと皆が快適になるのかを考えて生活したい。
- 様々なことに興味を持って、より一層勉強に励みたいと思った。
- 人とのコミュニケーションを積極的に取り組んでいこうと思う。
- 医学生の方が学習館を利用したり、分からないことはすぐ先生に聞いたりしていたと言っていたので、これはすぐに実践できるのでこれからやろうと思いました。
- ３人の生徒さんたちがおっしゃっていた高校生の時の習慣を真似してみたい。
- 自分の独断に陥ることがないよう視野を広く持ち、様々な分野の知識を蓄えていきたいと思いました。
- 今の高校の勉強を頑張るとともに、将来、自分が行く学部や就きたい職業などを調べて、視野を広げていきたい。
- もっと医療について深く知りたいと思ったので、オーキャンやセミナーにもっと参加したいと思った。
- 医療の現場では多種多様の人が関わっていると学びその職種について自分で調べてみたい。
- 大学生の皆さんが言っていたように、夢を諦めず、今できることを全力で取り組んでいきたいです。勉強と部活の両立を再度徹底したいと思います。
- 規則的な勉強 やる日やらない日の波のない勉強 学力を伸ばしていけるような効率的な勉強。

設問 5 今回の事業について，感じたことを自由に記述してください。

- 入試本番で最高の実力を出すためにした方がいいことがあれば伺いたいです。
- 病気と言っても症状について考える疾患と人について考える病があることについてアフターケアが大切であり、自分も医療の仕事に就いたらそのことを考えて働きたいと考えた。
- 鈴木先生や医学生のお話がこれからの進路についてとてもためになった。
- 病気が治っても患者さんは今まで通りの生活を送れなく不安でいっぱいだと思うし、介護する人の生活もこれまでとは変わってしまいどうしたらいいのか何も分からないので、治したあとのサポートが本当に大事だと思いました。医師や看護師だけでなく私が興味のある理学療法士も重要だと改めて分かったのでより目指す気持ちが強くなりました。
- 質問:先生が医学系に進むときに一番大切だと思う教科はなんですか。
- 質問お願いします。 何に対しても（勉強など）モチベーションがなくなった時にでもやらなければいけない時はどのようにしてモチベーションを上げていますか？ お願いします。
- 鈴木先生への質問です。 下妻一高では、文理選択があり、その中でも理系は物理と生物での選択があります。 病院に勤務している多くの人は理系出身だと思うのですが、物理と生物ではどちらを学んでいた方が良いというのはありますか？
- 今回のセミナーを通して医学部や医療関係の仕事について学ぶことができ、よりそのような仕事に興味を持つことができた。

- オンラインという形だったけれど、今回の授業で患者や、患者の家族を支援していくためには沢山の方法があるということが学べた。 患者を中心として治療していく上で必要なことは患者を理解するのが必要だということはとても感銘をうけた。
- 母がケアマネなので母から聞いていた仕事と似たような話が聞けて興味深かったです。
- 今までの医療系のセミナーはその大学の特徴とか、病院での事とかを説明されたけど今回のは病院外の退院したあとの医師の対応などについて友達とディスカッション出来ていい体験だったと思う。
- 今回は Zoom で行われたのですが、やっぱり直接の方が良いなと思いました。この状況下で開催していただけたこと自体ありがたいのでわがままになってしまいますが、直接じゃないと伝わらないこともあるかなと感じました。
- 医療の場において医者や看護師だけがメインなのではなく、薬剤師や臨床検査技師、放射線技師などの方々も必要不可欠な存在であり、 沢山の医療関係者の方々にお世話になっているんだなと思った。
- 介護は想像以上に大変だ。動きたくても動けない介護される側も、自分の生活があり、介護だけの生活にできない介護する側も、互いにストレスにならない今後のプランを考えることが大切だと思う。
- 漠然と感じていた医療系が具体的に感じることができた。

設問 6 この事業に参加して，医師の仕事や医学生としての学びについての理解は深まりましたか。

設問 7 今回の 事業 は，あなたにとって有意義でしたか 。